

2年学年だより

大淀中学校 2年 平成29年7月19日 第18号

〇(夏休みには・・・

明後日から、中学時代2回目の夏休みが巡ってきます。楽しみにしている人が多いことでしょう。

学校が大好きで、夏休みなんかいらん!という人もいるようですが・・・すばらしい!!

早寝・早起き・朝ごはん。規則正しい生活をこころがけ、宿題は計画的にこなし、心身ともに健やかに過ごしてください。

何よりの願いは、8月25日(金) 2学期始業式に全員が元気に登校すること。全員の元気な姿を見られること。心から願います。

夏休みには、「平和」について考えてほしいと思います。平和で豊かな日本に暮らしていると、日々平和について思いをはせることがありませんね。

わが国にとって「8月」は、広島、長崎の原爆投下、敗戦の日のある月です。あらためて「平和」について考えてほしいと思います。

戦争体験者からお話を聴いたり、書物や映像から学んでほしい。大淀中学校の図書館にも戦争に関する書物があります。[本日、夏休み中の貸出日です]

特に戦争を体験された方は、みなさんご高齢になられ、ここ数年が体験を聞き取れる最後のチャンスだと言われています。おじいさん、おばあさん、ご近所の方に戦争体験者がおられましたら、ぜひ聴き取りしてみてください。

2年生は「原爆」についての学習をしました。配布された原爆新聞『知る 原爆』を、ご家族の方とじっくり読んでみてください。

野坂昭如[のさか あきゆき]さんの著書に『火垂るの墓』があります。アニメ化されており、テレビ放映されたことがあるので、視聴した人もいると思います。文庫本として上梓されていますので、未読の人は読んでみてください。

神戸大空襲で戦災孤児となった兄妹の物語です。わたしも本を読み、テレビ放映も幾度か見ましたが、学生時代と子を持つ親になってからは、著しく「受け止め」が変わりました。

6月に父親を亡くし、母親と話をする機会が増えました。遺品を整理しても、親父は自らの歴史を何ひとつ書き残していませんでした。生前、自らの人生を語ることもなく逝きました。

母親が断片的に語ったことを総合すると、親父は神戸大空襲を経験しており、戦災孤児であったということです。記憶の糸をたどりよせると、高校時代にテレビで『火垂るの墓』を家族で見ていたとき、親父が急に泣き叫んで2階にあがり、しばらく自室に閉じこもったことがありました。あの時は全く理解できませんでした。今は心痛を伴って理解することができます。

4歳の子どもがひとり焼け野原の神戸の街をさまよっていたと思うだに、涙を禁じえません。

親父は自らを何も語りませんでした。たくさんのお話を教えてくれました。[反面教師という部分からも・・・]

親父があの大空襲で亡くなっていたら、私はこの世に生を受けていません。感謝しています。

[連絡]

7/19(水) 1限 学年集会 多目的室

2限 特 各学級

3・4限 大清掃

午後 期末懇談

14:00～シナリオ委員会

(第2理科室)

※教室内の私物はすべて持ち帰ってください。

7/20(木) 終業式→一旦下校し、

10:30～11:00 奉仕活動

☆8月23日(水) 16:00～ 2年学年登校日

